



# 佐賀大学教職大学院 院生ライフレポート



## 大学院 1 年生 後期の授業を一部紹介します



11月に入り徐々に寒さが増してきました。11月の中旬には、佐賀県では3年ぶりのバルーンフェスタが開催され、青空いっぱいにバルーンが飛んでいる様子も見られました。

さて今回は、後期の各コースの講義内容について紹介します。後期は、各コースとも専門分野に特化した講義が増えてきました。まず、子ども支援探究コースの専門科目の一つである「発達障害児・者のライフスキルと理解の支援」について紹介します。この科目は、障害児心理学や育児支援等を専門とされている中島先生の講義です。ライフスキルとは、就学や社会参加において、就労において身につけておくべきスキルのことです。本講義では、ライフスキルを様々な視点から学んでいきます。講義の内容の一つとして、「ペアレント・プログラム (ペア・プロ)」を学んでいます。これは、発達障害のある子どもの親への支援として開発されたプログラムで、肯定的な言葉かけなど適切な対応を身につけることで、子どもの困った行動を減らす目的があります。この活動を実際に体験した受講者からは、困った行動を見つめ直すことができたという感想が多くありました。

次に教育経営探究コースについて紹介します。他のコースと同様に、後期は専門科目授業が多くなりました。その中で、次年度の学校変革試行実習のためのリサーチプロポーザル作成について紹介します。これまでに、現任校の分析を行い現任校の課題を抽出し、その課題を解決するための先行研究のレビューをして学校組織改革の理論について整理してきました。また、関係機関実習を通して、課題解決の手掛かりとなる情報収集をしました。これらをもとに、現在リサーチデザイン作成を行っています。先生方のご指導のもと、次年度の学校変革試行実習を進めていくための重要な計画づくりをしています。

今後も先生方のご指導や講義から実践につなげることができるよう、学びを深めていきたいです。



## 先輩方の発表会に参加しました

授業実践探究コースでは、11月中旬に「令和4年度 授業実践探究コース 2年次探究実習成果発表会」が行われ、同コースの我々1年

生も参加しました。理論に基づいた実習の実践やその分析についての報告を聞くことで、今後自分たちが取り組むべきビジョンが具体的に見えてくると同時に、研究にもっと励まなければ、と身が引き締められました。発表会の後、1年生からは来年の探究実習に対する不安の声も聞かれましたが、先輩方に適切な助言をされる大学院の先生方の姿に、先生方の指導のもと学びを深めていけば、少しずつ研究の展望も開けると思うことができました。11月は、授業実践探究コースの1年生にとって基盤実習・異校種実習の折り返し地点をまわる時期です。実りある実習になるように、また理論と実践の往還をできるように、研究に取り組んでいきます。